

令和2年度  
事業報告書

法 人 本 部  
千 歳 敬 心 苑  
池 袋 敬 心 苑  
浦安市障がい者福祉センター  
敬 心 ゆ め 保 育 園

社会福祉法人 敬心福祉会

# 令和2年度事業報告書

## 目 次

		頁
1	社会福祉法人敬心福社会 経営理念 ……	1
2	令和2年度事業報告(はじめに) ……	2
3	第1部 法人本部 ……	3
4	第2部 千歳敬心苑 ……	11
5	第3部 池袋敬心苑 ……	18
6	第4部 浦安市障がい者福祉センター ……	26
7	第5部 敬心ゆめ保育園 ……	30

## 社会福祉法人敬心福社会 経営理念

わたくしたちは、少子高齢社会における地域福祉の拠点たる使命を自覚し、次に掲げる理念の基に永続的事業の経営に取り組みます

- 1 いつも敬う心で人権と尊厳を守り、利用者(おとしより・障がい者・児童) に接します
- 2 ひとりひとりの利用者にとって最もふさわしい生活を追求し、利用者と家族が満足するサービスの提供に努めます
- 3 法人・施設の持つ機能を活かし、地域社会への貢献に努めます
- 4 常に健全で活力ある経営と民間社会福祉事業としての先駆性・独自性に努めます
- 5 常に職員の資質の向上と待遇の改善を図り、いつも明るくさわやかに働く施設を目指します



## 令和 2 年度事業報告(はじめに)

令和 2 年度は、新型コロナウイルス感染症が猛威を振るい世界中でその対策に追われた年になりました。国内の多くの高齢者施設でも、新型コロナウイルス感染症によるクラスターが発生し被害がでております。私どもの施設では感染症対策に普段から留意し万全を期しておりましたが、改めてその重要性を認識し更なる対策強化を求められている状況です。当法人が大きな被害を受けることなく事業を継続維持できたことは、職員の皆様がエッセンシャルワーカーとしての自覚とプライドを持ち、ご利用者、ご家族、地域を守るという高い意識をもって業務に従事した皆様の努力の賜物であります。理事長として改めて感謝申し上げる次第です。

このような情勢の中、当法人も在宅サービス事業においてはご利用者の外出控えもあり収入が大きく落ち込みました。その対策として、国の補助金や助成金を活用し事業の維持に努めて参りました。また、千歳敬心苑と池袋敬心苑は、福祉医療機構からコロナ禍に対応した融資条件の良い事業資金の借入を行い、事業資金を厚くすることで今後の事業継続に不安がないよう準備をすることができました。そのような努力の結果、令和 2 年度の決算は、資金収支計算書において法人全体で黒字になる見込みです。一方、浦安市障がい者福祉センターは平成 15 年 11 月から浦安市の管理業務を受託し運営を行って参りましたが、新たに令和 3 年度から 5 年間の指定管理者選定に応募し正式に受諾をすることができました。5 年間の指定管理事業では、地域の要望に応え、新規事業として一般相談支援事業を行います。東船橋市の敬心ゆめ保育園においては、コロナ禍でも引き続き区内で待機児童数が最も多い保育園であり、地域住民の皆様から高い評価をいただいております。

令和 3 年度は、新型コロナウイルス感染症の防疫を最重要課題としております。社会福祉法人として、ご利用者及び職員の命と生活を守る使命を役職員一同で改めて共有し、社会に欠かすことができない存在としてその期待に応えるべく、法人の基本理念である「敬う心」をもって社会に貢献をして参ります。

最後となりましたが、ご利用者及びご家族、地域、関係行政機関、学校法人敬心学園の皆様方から多大なるご支援を頂きましたことに、社会福祉法人敬心福祉会役職員一同を代表して、心より感謝と御礼を申し上げます。

令和 3 年 3 月 31 日  
社会福祉法人 敬心福祉会  
理事長 小林 光 俊

# 第1部 法人本部

## 目次

	頁
1 法人の事業 ……	3
2 令和2年度 …… 理事会及び評議員会の開催状況	4
3 役員名簿・評議員名簿 ……	5
4 法人組織図 ……	6
5 法人の沿革 ……	7
6 令和2年度 …… 法人で取り組んだ主な事項等について	8
7 法人経営会議の開催状況 ……	9



# 1 法人の事業

社会福祉法人敬心福祉会は、学校法人敬心学園が母体となり、それまでの福祉教育の経験と成果を生かし平成8年2月15日に設立されました。

その目的は、利用者が個人の尊厳を保持しつつ、自立した生活を地域社会において営むことができるよう支援することにあります。

そのため、社会福祉法人敬心福祉会が行う多様な福祉サービスは、その利用者の意向を尊重して総合的に提供されるよう創意工夫してまいります。

当法人は、上記の目的を達成するため令和3年度は次の事業を行います。

## (1) 第一種社会福祉事業

- ・特別養護老人ホームの経営
- ・障害者支援施設の経営

## (2) 第二種社会福祉事業

- ・老人デイサービスセンターの経営
- ・老人短期入所事業の経営
- ・老人居宅介護等事業の経営
- ・障害福祉サービス事業の経営
- ・地域活動支援センターの経営
- ・特定相談支援事業の経営
- ・一般相談支援事業の経営
- ・認可保育所の経営
- ・病児保育事業の経営

## (3) 公益を目的とする事業

- ・居宅介護支援事業の経営
- ・地域包括支援センターの経営
- ・障害者施設入浴サービス事業の経営

## (4) その他事業

- ・世田谷区高齢者住宅生活協力員業務の受託

## 2 令和2年度 理事会及び評議員会の開催状況

開催日(場所)	出席者数	主な内容
第1回理事会 令和2年5月20日(水) (決議の省略)	理事 7名 (欠席 0名) 監事 2名 (欠席 0名)	第1号議案 2019年度事業報告について 第2号議案 2019年度計算書類について 第3号議案 定時評議員会の開催について 第4号議案 社会福祉充実残額について 第5号議案 評議員選任解任委員の選任
定時評議員会 令和2年6月11日(木) (決議の省略)	理事 7名 (欠席 0名) 監事 2名 (欠席 0名)	第1号議案 2019年度計算書類について 第2号議案 社会福祉充実残額について 報告第1号 2019年度事業報告について 報告第2号 監事監査の実施と報告について
臨時理事会 令和2年9月20日(日) (決議の省略)	理事 6名 (欠席 1名) 監事 2名 (欠席 0名)	第1号議案 定款の一部変更について 第2号議案 評議員会決議の省略について
臨時評議員会 令和2年9月25日(金) (決議の省略)	評議員 8名 (欠席 0名) 理事 6名 (欠席 1名) 監事 2名	第1号議案 定款の一部変更について
第2回理事会 令和2年10月22日(木) 15:00~17:00 (学園本部会議室)	理事 6名 (欠席 1名) 監事 2名 (欠席 0名)	第1号議案 令和2年度補正予算について 第2号議案 施設運営規程の改定について 第3号議案 福祉医療機構借入について 第4号議案 池袋の空調設備改修について 報告第1号 法人委員会中間報告について 報告第2号 浦安市センター事業継続申請
第3回理事会 令和3年3月19日(金) 15:00~17:00 (ホテルグランドヒル市ヶ谷)	理事 6名 (欠席 1名) 監事 2名 (欠席 0名)	第1号議案 令和2年度補正予算について 第2号議案 令和3年度事業計画について 第3号議案 令和3年度予算について 第4号議案 評議員選任解任委員会の開催 第5号議案 次期評議員の選任について 第6号議案 評議員選任解任委員の選任 第7号議案 施設運営規程の改定について 第8号議案 第三者委員の選任について 第9号議案 賃金規程改定前の賃金精算

### 3-1 役員名簿

定数 理事7名、監事2名(令和3年3月31日現在)

	役職名	氏名	就任月日(任期)	主な経歴
1	理事長	小林 光俊	2019年6月6日 ～令和3年6月	学校法人敬心学園 理事長
2	理事	小川 博幸	2019年6月6日 ～令和3年6月	常務理事
3	理事	遠藤 茂	2019年6月6日 ～令和3年6月	元 統括施設長
4	理事	佐藤 宏美	2019年6月6日 ～令和3年6月	敬心ゆめ保育園 園長
5	理事	原田 佳明	2019年6月6日 ～令和3年6月	永和総合事務所代表・税理士
6	理事	阿久津 撰	2019年6月6日 ～令和3年6月	日本児童教育専門学校 副校長
7	理事	紅葉 真幸	2019年6月6日 ～令和3年6月	学校法人敬心学園 学園本部
8	監事	齊藤 幸司	2019年6月6日 ～令和3年6月	齊藤会計事務所所長・税理士
9	監事	村尾 俊明	2019年6月6日 ～令和3年6月	元日本社会福祉士会会長・現相談役

任期の終期は、令和3年度の定時評議員会の終結時(令和3年6月を想定)

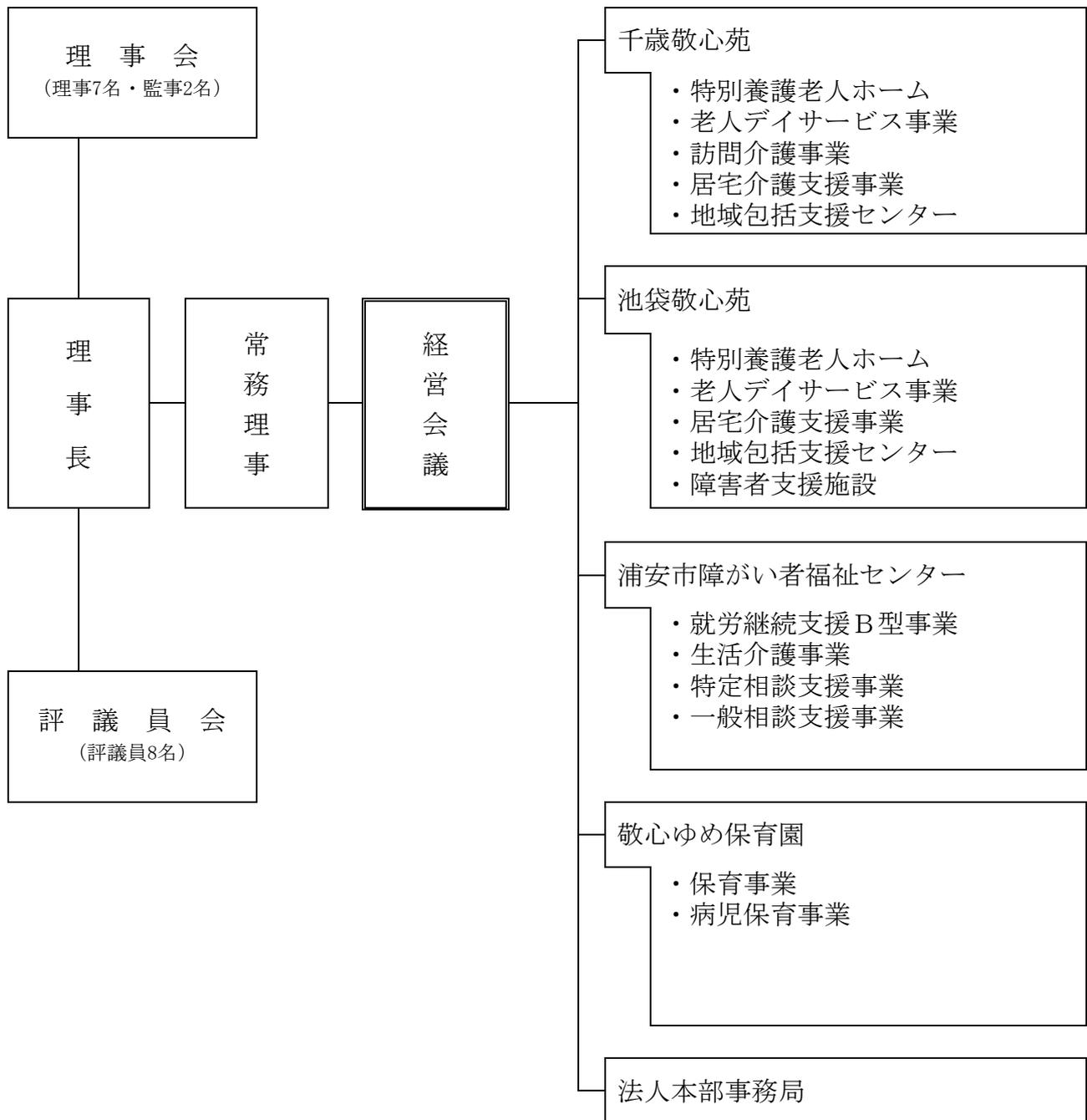
### 3-2 評議員名簿

定数 8名(令3年3月31日現在)

	氏名	就任月日(任期)	主な経歴
1	内野 滋雄	平成29年6月13日 ～令和3年6月	(福)三徳会 理事長・医師
2	多久島 耕治	平成29年6月13日 ～令和3年6月	(福)都心会 理事長・弁護士
3	鈴木 武夫	平成29年6月13日 ～令和3年6月	元 東京都参事
4	宍戸 安夫	平成29年6月13日 ～令和3年6月	世田谷区給田町会 会長
5	蟻塚 昌克	平成29年6月13日 ～令和3年6月	立正大学社会福祉学部 教授
6	鈴木 恵子	平成29年6月13日 ～令和3年6月	民生委員・児童委員・保護司
7	中島 昭	平成29年6月13日 ～令和3年6月	(福)恩賜財団 東京都同胞援護会 常務理事
8	児玉 裕司	平成29年6月13日 ～令和3年6月	日本陶芸倶楽部 理事

任期の終期は、令和3年度の定時評議員会の終結時(令和3年6月を想定)

## 4 社会福祉法人 敬心福社会 組織図



## 5 法人の沿革

平成	8	年	2	月	15	日	社会福祉法人 敬心福祉会 設立
平成	9	年	4	月	14	日	特別養護老人ホーム「千歳敬心苑」設置認可・開所
			6	月	1	日	老人短期入所事業「千歳敬心苑」開始
			7	月	1	日	老人デイサービスセンター「デイ・ホーム千歳」開所
平成	11	年	4	月	4	日	「給田在宅介護支援センター」開所
平成	12	年	10	月	1	日	「給田介護保険サービス」事業開始
平成	14	年	5	月	1	日	「給田ヘルパーステーション」開所
平成	15	年	11	月	1	日	「浦安市障がい者福祉センター」の運営受託
平成	17	年	4	月	1	日	特別養護老人ホーム「池袋敬心苑」設置認可・開所
							老人短期入所事業「池袋敬心苑」開始
							老人デイサービスセンター「デイホーム南池袋」開所
							「ふくろうの杜在宅介護支援センター」開所
							「ふくろうの杜介護保険健サービス」事業開始
							身体障害者療護施設「雑司谷」開設
							身体障害者短期入所事業「雑司谷」開始
			10	月	1	日	「雑司谷デイサービスセンター」開所
平成	18	年	4	月	1	日	「烏山あんしんすこやかセンター」開所
							「ふくろうの杜地域包括支援センター」開所
							「スワンカフェ&ベーカリー新浦安店」開設
平成	20	年	7	月	1	日	「浦安市身体障がい者デイサービスセンター」受託
平成	21	年	4	月	1	日	豊島区障害者施設入浴サービス事業運営受託
平成	22	年	1	月	1	日	ふくろうの杜地域包括支援センターを
							「ふくろうの杜高齢者総合相談センター」に名称変更
平成	23	年	4	月	1	日	浦安市知的障がい者通所授産施設、浦安市知的障がい者通所更生施設及び浦安市福祉作業所を、就労移行支援、就労継続支援B型及び生活介護の各事業へ移行
平成	24	年	4	月	1	日	身体障害者療護施設「雑司谷」を、障害者支援施設（施設入所支援、生活介護）へ移行
平成	25	年	3	月	31	日	「スワンカフェ&ベーカリー新浦安店」閉店
							「浦安市身体障がい者デイサービスセンター」指定管理期間満了
平成	26	年	4	月	1	日	敬心ゆめ保育園 開園
平成	29	年	4	月	1	日	敬心ゆめ保育園 病児保育事業 開始
平成	31	年	3	月	31	日	豊島区障害者施設入浴サービス事業 期間満了
令和	3	年	4	月	1	日	浦安市障がい者福祉センターの指定管理更新に伴い、「一般相談支援事業」開始

## 6 令和2年度 法人で取り組んだ主な事項等について

### ① 法人ガバナンス強化と制度等の総点検について

---

- ▶ 起案制度の更なる進化(起案書統一化等ルール制定とマニュアル化)
- ▶ 事件・事故報告書の制度新設
- ▶ 給与試算表・給与明細書・交通費申請書等関連資料の法人統一化
- ▶ 最新規程集および共通様式集の制定と差し替え
- ▶ 各施設固有の内規等の統廃合とルールづくり

### ② (コロナ禍)感染症対策等について

---

- ▶ 全職員向け「感謝支援金」の支給
- ▶ オンライン面会等のコロナ対策の情報共有
- ▶ 慰労金・かかり増し経費等の申請作業支援
- ▶ コロナ緊急包括支援交付金の支給

### ③ 経営の適正化と財務の健全化について

---

- ▶ 各施設黒字化作戦の策定と進捗管理
- ▶ 経営会議(決算確認会)の新設
- ▶ 法人委員会・プロジェクトの発足と進捗報告制度の確立
- ▶ 緊急事態宣言下における事業計画基本方針と行動指針の策定
- ▶ 毎月定例の経営会議資料フォーマット改定

### ④ 施設活動支援

---

- ▶ 浦安市障がい者福祉センター指定管理プロポーザル戦略会議
- ▶ 定款変更手続き(浦安市障がい者福祉センター)
- ▶ ホームページ改修および Web サイトのバージョンアップ
- ▶ 法人表彰制度(業務改善提案等)の検討開始

### ⑤ 福利厚生・人事関連改革

---

- ▶ 永年勤続表彰式の開催
- ▶ 法人創立 25 周年事業の検討開始
- ▶ 永年勤続表彰制度の改定(入職 25 年表彰を新設)
- ▶ (仮称)賃金規程等改定委員会の再発足

## 7 法人経営会議の開催状況

<p>第1回 令和2年4月23日(木)</p> <hr/> <ul style="list-style-type: none"><li>▶ 起案制度(起案書統一化等ルール制定)</li><li>▶ 決算作業および確認会の実施について</li><li>▶ 法人委員会の運営方針の策定について</li><li>▶ 夏季賞与の支給要綱について</li><li>▶ 部門長評価シートの試行について</li></ul>	<p>第4回 令和2年7月21日(水)</p> <hr/> <ul style="list-style-type: none"><li>▶ 各施設黒字化作戦(コロナ禍)について</li><li>▶ 事件事故報告書の制度新設について</li><li>▶ 法人表彰制度(業務改善提案等)について</li><li>▶ 法人創立25周年記念事業について</li><li>▶ スキルズインベントリー制度の検討について</li></ul>
<p>第2回 令和2年5月20日(水)</p> <hr/> <ul style="list-style-type: none"><li>▶ (コロナ禍)感謝支援金の支給について</li><li>▶ 定時評議員会の開催について</li><li>▶ ホームページ改修について</li><li>▶ 浦安市センターの事業継続申請について</li><li>▶ (コロナ禍)オンライン面会等について</li></ul>	<p>第5回 令和2年8月19日(水)</p> <hr/> <ul style="list-style-type: none"><li>▶ 永年勤続表彰式の式次第等について</li><li>▶ 給与・交通費等関連資料統一化について</li><li>▶ 最新規程集の差し替えについて</li><li>▶ 緊急包括支援交付金の手続き等について</li><li>▶ (浦安市)障害者グループホーム案件について</li></ul>
<p>第3回 令和2年6月17日(水)</p> <hr/> <ul style="list-style-type: none"><li>▶ 施設長と理事長の面談について</li><li>▶ 永年勤続表彰式の開催等について</li><li>▶ 施設長特別賞与の支給について</li><li>▶ 障害者雇用納付金の納付について</li><li>▶ 決議の省略方式の説明について</li></ul>	<p>第6回 令和2年9月23日(水)</p> <hr/> <ul style="list-style-type: none"><li>▶ 浦安市センター指定管理プロポについて</li><li>▶ 下期事業計画基本方針と行動指針について</li><li>▶ 豊島区長より小林理事長の表彰について</li><li>▶ 第2回理事会の議案等について</li><li>▶ 下期各施設の組織運営体制について</li></ul>

<p>第7回 令和2年10月22日(木)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 冬季賞与の支給要綱について</li> <li>▶ (浦安市センター)定款変更について</li> <li>▶ (コロナ禍)かかり増し経費等の申請について</li> <li>▶ 各施設固有の内規等の統廃合について</li> <li>▶ 社内 Web サイトの契約内容の変更について</li> </ul>	<p>第10回 令和3年1月20日 (コロナ緊急事態宣言にて資料会議)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 起案制度のデジタル化について</li> <li>▶ 令和3年度事業計画・予算策定について</li> <li>▶ 令和3年度事業計画基本方針について</li> <li>▶ 本部事務局事前連絡会の新設について</li> <li>▶ 第3回理事会の議案等について</li> </ul>
<p>第8回 令和2年11月18日(水)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 理事長と施設長の面談について</li> <li>▶ 再雇用職員の再雇用申請について</li> <li>▶ 永年勤続表彰制度の一部改定について</li> <li>▶ 経営会議資料のフォーマット変更について</li> <li>▶ 施設(部門)業績評価制度の新設検討について</li> </ul>	<p>第11回 令和3年2月17日(水)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 会計責任者・個人情報保護責任者の任命について</li> <li>▶ 第三者委員・嘱託医の新年度委嘱について</li> <li>▶ 評議員選任・解任委員会の開催について</li> <li>▶ 第3回理事会の議案等提出について</li> <li>▶ 経営会議(決算確認会)の新設について</li> </ul>
<p>第9回 令和2年12月09日(水)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 浦安市センター指定管理認可内示について</li> <li>▶ 社会福祉法人の事業展開の指針について</li> <li>▶ 介護サービス等介護報酬改定について</li> <li>▶ コロナ感染予防に関する取組について</li> <li>▶ 設備投資・修繕等の起案前相談制度について</li> </ul>	<p>第12回 令和3年3月19日(金)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 令和2年度事業報告書策定について</li> <li>▶ 各施設組織図(施設長運営体制)について</li> <li>▶ 令和3年度会議体等スケジュールについて</li> <li>▶ 令和3年度理事会・定時評議員会等について</li> <li>▶ (仮称)新賃金規程改定委員会の発足について</li> </ul>

第2部  
千歳敬心苑  
(東京都世田谷区給田)

目次

	頁
1 はじめに ……	11
2 特別養護老人ホーム千歳敬心苑 ……	12
3 デイ・ホーム千歳 ……	14
4 給田ヘルパーステーション ……	15
5 給田介護保険サービス ……	16
6 烏山あんしんすこやかセンター ……	17



# 1 はじめに

令和2年度は、デイ・ホーム千歳で職員1名がコロナ陽性となり、事業休止状態からのスタートでした。その後、短期入所においても、ご利用者が利用終了後にコロナ陽性となり、職員、ご利用者数名が濃厚接触者となって、自宅待機をすることになりました。昨年3月に発生したこともあり、まだコロナに対する知識、情報が十分でない時期でした。風評被害に苦しみました。職員の家族にも大きな影響があり、学校に行けない、会社に行けない、それだけでなく、家族に対しても厳しい目、厳しい言葉が向けられました。

職員たちは、本当に苦しみました。職場に行くことを家族に反対される者もいました。事業再開を喜ぶよりも、再開することへの不安の方が大きかったです。時間とともに、ご利用者数が回復していくことにも、職員間で賛否ありました。「またコロナが発生したらどうするのか?」「職員よりも利益優先なのか?」といった反対意見もありました。しかし、感染症や災害が起きた後であっても、介護福祉事業は継続していくこと。これが社会的使命でもあります。

職員たちと話し合いを重ね、徐々に理解を得ていくことができました。

得体の知れないコロナウイルスとの戦い。こういった不安のなかで大事なものは、職員の心のケアです。みんなが不安です。そのなかでも、上長たちは職員の話をよく聴き、不安に寄り添い、支えになってくれました。

このような状況からスタートした一年。

第一四半期においては、経営的なダメージも大きく、これも職員たちに大きな負担としてのしかかりました。感染症対策を万全にしながら、尚且つ稼働率も上げていく。これは並大抵のことではありません。ときには悔しさに涙を流し、ときには喜びの涙を流し、一年間必死に働きました。

この経験で得た大きな財産は、職員たちの絆です。

令和2年度が終わったとき、決して高くはありませんが、私たちの目指してきた目標に手が届きました。

一人ひとりが最善を尽くし、仲間同士力を合わせれば、どんな困難な状況からも立ち上がることができる。そのことを証明してくれました。みんなで築いたこの実績、この経験を誇りにしてほしい。

職員たちは、私の誇りです。

令和3年5月  
千歳敬心苑 施設長 山口 晃 弘

## 2 特別養護老人ホーム 千歳敬心苑

(指定介護老人福祉施設 定員:80名 併設型短期入所生活介護 定員:12名)

### (1) 特別養護老人ホーム

#### ① 重点目標の達成状況

---

(1) 特養稼働率 97.81%、短期稼働率 97.44%でした。コロナ禍で厳しい状況でありながら、特養は目標を達成し、短期も近年にない高い稼働率を実現しました。

(2) 新・幸せ指標については、コロナ禍において外出などが困難であり、そのなかで出来ることを追求して行うにとどまりました。

(3) 職員に対して、身体介護を感覚的理解から、力学的理解に変化するよう、研修を計画していました。これについても、コロナ禍で身体に触れる研修が実施できず、計画どおりとはなりませんでした。

(4) リーダーシップを発揮し、ダイバーシティマネジメントの実現を目指しました。コロナ禍において会議開催なども難しいなか、話し合う機会が例年に比べ圧倒的に少なかった印象です。次年度に持ち越す課題となりました。

#### ② その他目標の達成状況

---

コロナ禍における感染症対策は徹底してきましたが、冬場にウイルス性胃腸炎のような症状のご利用者、職員が続きました。しかし、看護師、生活相談員を中心に、医療機関との連携は充実したものになりました。コロナ禍で受診が難しい状況であっても、病院との連携を深め、ご利用者の健康を守るための最善を尽くしたと思います。

機能訓練に関しては、新たに機能訓練指導員を迎え、ポジショニングや福祉用具の選定など、過去にない充実したものになりました。

食事に関しては、ご利用者本人、ご家族の希望があれば、できる限り最後まで口から食べることにこだわって実践してきました。

看取りに関しては、17名の方がご逝去されました。コロナ禍においても、看取り期のご家族面会は最大限実現し、最期までご家族とともに考え、寄り添い、多職種が連携して最期の時を迎えることができたと感じています。

#### ③ 年度総括

---

3月から4月にかけて、施設内にコロナが発生し、大変厳しい一年のスタートでした。そのなかでも、感染症対策を徹底しながら、ご利用者に楽しんでいただくためのイベントを開催し、ご利用者の健康と幸せを守るために尽力しました。看取りに関しても、ご家族からたくさんの感謝の言葉をいただきました。高い稼働率も維持し、コロナ禍で職員たちは最大限努力した一年だったと思います。

## (2) 併設型短期入所生活介護

### ① 重点目標の達成状況

---

介護計画表作成に際しては、ご利用者の日々の生活状況や環境なども視野に入れ、反映出来るよう心掛けてきました。入退所時にご家族の同席が難しい際は書面にて聞き取りが出来るよう整えてきた事も徐々に浸透し、在宅での様子をお知らせ頂ける手段となりサービスの提供の際の情報となっていました。

新規利用の方については、コロナ禍で訪問が難しいケースもあり、担当ケアマネージャーからの情報をもとに電話連絡でご家族から聞き取りをしながら入所日を迎える事もありました。

ご利用者の不安感と違ったご家族からの心配事にも丁寧に伺う事で、サービスの提供に安心感も提供出来るよう心掛けてきました。その結果、定期的な利用に繋がってきたと考えています。

### ② その他目標の達成状況

---

滞在中の介護サービスについても、丁寧に取り組みながら清潔に日常を送れるよう配慮してきた事で不快感が少ない日々を過ごして頂けたと感じています。

サービスを利用する事でADLの低下を感じる事がないよう、日常生活の中でのリハビリと併用し機能訓練指導員に歩行や立ち上がり、可動域訓練を依頼する事で在宅生活の維持に繋がるよう心掛けてきました。実際に下肢の筋力維持など日常生活の中での取り組み方次第で退所時には「来た時よりも歩けているように感じる」とご家族から伺う事もありました。今後のサービス提供の際にも重点を置いて提供していきます。

日中の過ごし方についても、歌や体操に参加して頂く他に、塗り絵や貼り絵など作品を仕上げで持ち帰られたり、季節にあったイベントを開催した際に甘い物を食べながら楽しまれた等の報告に喜んでいただけました。

### ③ 年度総括

---

年度当初はコロナウィルス感染症の影響でサービスを見合わせる方も多く、数か月間稼働の低下が続いていました。そんな中でも予定通り利用された方もあり、在宅生活の維持の為にサービスが必要な方も多い事を実感し、より安全に、安心して入退所をして頂くよう対応してきました。

短期入所から本入居に移行された方や、他施設の入所された方も多く、ひと月の中でも変動がありました。毎月平均3名の新規利用者をご案内出来た事や、その方々が再利用に繋がっていた事で徐々に稼働の安定に繋がり、下半期には稼働目標を達成する事が出来ました。

### 3 デイ・ホーム千歳

(指定通所介護 定員:42名 認知症対応型通所介護 定員:12名)

#### ① 重点目標の達成状況

---

##### (1) 認知症対応型の質の高いサービス提供と稼働向上について

ご利用者の傾向として、重度の方が多いので、発語や笑顔などの反応が見られるように接することに力を注ぎました。コロナ禍の感染対策も並行して行うため、結果的には個別にお散歩に出かけることが多くなりました。稼働率は目標の75%には遠く及ばず47.5%となっております。ショートステイ利用や入院などによる欠席者の多さに加えコロナ禍も影響しました。

##### (2) イベントの充実について

コロナ禍で上半期はほぼ何もできませんでした。9月に敬老会を縮小した形態で行ったところ、ご利用者の笑顔を沢山見ることができ、それ以来職員の意識も徐々に変化し、感染症対策を厳重に行ったうえで、何ができるかを考えるようになりました。下半期にはコロナ禍でないと開催されなかったはずの新しい行事(苑内でのカフェ企画や手造り神社での初詣等)も行われるようになりました。

##### (3) 従業者満足度や人材育成について

コロナ禍を逆手にとり「今しかできないことをする」という考え方に切り替える発想とリーダーシップを発揮できた職員もいました。コロナ禍により職員の関係性は以前より強固になったように感じます。また、ヘルパーの業務を行うことや、行事を0から作り出したことなどで個々の職員が平常時では考えられなかった能力を発揮することも出来たと思います。

#### ② その他目標の達成状況

---

一般の通所介護においても稼働率は45.3%と目標値(80%)には遠く及びませんでした。コロナ禍による自粛により第一四半期に全く新規契約ができなかった影響が大きかったです。しかし、第二四半期以降、30件の契約ができたのでコロナ禍においても新規の相談に関しては平常時と同様のペースで受け入れることができました。

#### ③ 年度総括

---

令和2年度はコロナ陽性者が出たことによる1週間の休業と自宅待機、その後の縮小営業により経営的にも厳しく、また職員全員が精神的にも痛手を負った状態で始まりました。しかしこの様な過去に経験した事のない状況を前に、思考停止に陥るのではなく問題の抽出・改善案・行動を繰り返してコロナ禍に対応することができました。平常時でも迅速な問題改善に至る思考が身につけていたため、それが活かされた結果だと思っています。また、他事業の方々が協力して経営を支えてくれたこともあり、個々の職員が在宅サービス課はもちろん、千歳敬心苑全体のことを考える幅広い視野を持つきっかけにもなったと感じています。

## 4 給田ヘルパーステーション(訪問介護事業所)

### ① 重点目標の達成状況

---

新規ご利用者の獲得に努めましたが、終了・休止とのバランスが悪く、1ヶ月あたりの売上目標 3,800,000 円に対し、平均 3,373,084 円と目標の 88.76%の達成となってしまいました。

モニタリング訪問にて、ケアプランに沿ったサービス提供が実施できているかの確認や、新たな課題がないか等の確認を行い、ご利用者にとってより良いサービス提供ができるよう努めました。

定期的に行っていたヘルパー研修やケア会議は、コロナウイルス感染拡大防止の観点から中止となりましたが、介護技術等必要に応じて個別に研修を行いスキルアップに努めました。令和3年度は新たな形でヘルパー研修を実施していきたいと考えております。

### ② その他目標の達成状況

---

サービス提供責任者間の意識統一を図るために、事業所内ミーティングにてご利用者情報などを共有しました。登録ヘルパーの人材不足により、サービス提供者が自らヘルパーとして稼働することが多く、全員で集合しミーティングすることが難しい状況ですが、常日頃のコミュニケーションにおいて活発な議論ができる関係性を築いています。

また関係各所への報告や相談を迅速に行うことを心掛け安心感のあるサービス提供に努めました。

### ③ 年度総括

---

コロナウイルスの感染拡大により、ご利用者・ヘルパー共に不安な1年となりましたが、感染予防に努めながら通常のサービス提供を実施する事ができました。

新規ご利用者の獲得は行えたものの、利用回数の多いご利用者の終了等が続いた事により、思った様に売り上げを伸ばす事ができませんでした。しかし8月から導入されたデイサービスとの連携が売り上げに貢献してくれています。それは新たな人材育成の形として未来への投資にもなっていると考えます。

## 5 給田介護保険サービス(居宅介護支援事業所)

### ① 重点目標の達成状況

---

年間を通して月平均2～3件の新規依頼を定期的に受けることができた為、介護支援専門員一人当たり31件となり、担当件数については目標を概ね達成できたと思われまます。今後も急な支援依頼にも対応できるよう環境を整備し、ご利用者・ご家族に対して寄り添いながらプラン作成を行い、地域に根付いた事業所づくりを目指していきます。

地域ケア会議・各種研修等への参加について、上半期はコロナ禍の影響もあり積極的な取り組みが困難な状況でしたが、下半期には事業所内におけるネットワーク環境の強化から、リモートを使用するの参加が可能となり、今後活かすことができる様々な情報を得ることができました。参加した職員には事業所内でのミーティングで報告を行ってもらい、事業所全体のスキルアップにもつなげられるよう努めました。

### ② その他目標の達成状況

---

コロナ禍においても感染症対策を十分に行いながら、毎月のモニタリングにおける訪問は継続することができました。どうしても訪問を控えてほしいと希望されるご利用者・ご家族に対しては電話やメール等で確認し、日々の生活状況における不安や相談事について、細かく確認させていただきました。

年度終わり間近ではありましたが、昨年度に続き給田介護保険サービスにおけるアンケート調査も行い、今回はご利用者・ご家族だけでなくサービス事業所用も作成し、配布させていただきました。アンケート結果は集計し分析を行うことで、サービスの向上とより良いマネジメント作成の参考にさせていただきます。

### ③ 年度総括

---

今年度は新型コロナウイルス感染に対する不安を抱える中で、ご利用者とご家族が安心してサービスを利用することが可能か、どのような対策を取ることで安全性を保つことができるのか、職員全員が日々悩みながらマネジメントをおこなってきました。そのような状況の中、改めてご利用者の身体状況やご家族の生活環境を細かく確認する機会を持ったことで、新たな気づきを見出すことができ、最終的には生活をより良くする為のサービス内容を見直すきっかけ作りにつながりました。

また、各サービス事業所における感染症対策や運営状況・行われている活動等についての確認が増えたことで、ケアマネジャーと事業所だけでなく、事業所間同士の連携も増え、これまで以上の協力関係を築くことができた1年であったと感じます。

今後も今回の経験を活かし、様々な苦境にも耐えることができるよう、事業所一体となって日々のマネジメントに努めてまいります。

## 6 烏山あんしんすこやかセンター(地域包括支援センター)

### ① 重点目標の達成状況

---

上半期は新型コロナウイルス感染症の流行により相談件数が昨年度の月平均より80件程度減少しましたが、下半期は60件程度増加しました。年間を通しての相談件数は昨年度と比べ360件程度増加となりました。新しい生活様式の提唱により、高齢者、家族以外の近隣住民等からの情報提供や相談が増加しました。

相談内容に応じ、烏山まちづくりセンター、烏山地域社会福祉協議会、烏山保健福祉センター、烏山地域障害者相談支援センターなど、関係機関や専門機関と情報共有を図り、あんしんすこやかセンター内での対応にとどまらず、適切な相談窓口への繋ぎを行いました。

### ② その他目標の達成状況

---

地域の事業所から事業の運営や個別の対応について相談を受けることが増え、介護予防・地域支援課からの対応の指示や厚生労働省からの介護保険最新情報などを遅れなく収集し、事業所へ伝達しました。

上半期は企画立案にとどまった区民向け介護予防講座については暮らしに身近な消費者被害防止、口腔機能向上というテーマで計2回開催しました。

地区連携医事業は区民向け在宅医療講座を含め、薬剤管理、フレイル予防、感染症対策、人生会議など多様なテーマで計7回開催しました。

地域住民へ認知症の普及啓発を行うため、地域のコミュニティカフェ運営団体による認知症カフェ立ち上げの支援を行いました。

### ③ 年度総括

---

年間を通して、新型コロナウイルス感染症対策マニュアルに則り、事業所内、訪問先での感染予防策を講じ、各種講座やイベントの運営を行いました。

ZOOM、MCSという新しいコミュニケーションシステムを導入し、参加者が安心、安全に参加できる形式でのイベント運営も行いました。

新しい生活様式が提唱され、利用者、高齢者、家族、地域住民の生活が大きく変化し、不安や混乱がある中、いつでも変わらず相談できる身近な窓口として運営を継続することを最優先に考えました。エッセンシャルワーカーとしての自覚を持った行動が求められ、職員にとっては心身共に負担の大きい1年となりましたが、安全で安定した事業運営に懸命に励みました。新年度も対応は継続しながら、緩急をつけた事業運営を目指します。



第3部  
池袋敬心苑  
(東京都豊島区南池袋)

目次

	頁
1 はじめに ……	18
2 特別養護老人ホーム池袋敬心苑 ……	19
3 デイホーム南池袋 ……	21
4 ふくろうの杜介護保険サービス ……	22
5 ふくろうの杜高齢者総合相談センター ……	23
6 障害者支援施設 雑司谷 ……	24



# 1 はじめに

すべての社会福祉法人の令和2年度事業報告書の冒頭にもこの「はじめに」があるとしたら、須く「新型コロナウイルス感染症」との闘いから書き始められていることでしょう。

そのような世界的にも全国的にも未曾有の事態である「コロナ禍」は、池袋敬心苑にとっても例外ではなく、ご利用者にも職員にもごく少数ではありますが罹患が発生し、令和2年度は新型コロナウイルス感染症と常時対峙せねばならない一年となりました。

幸いなことに、ご利用者についてもご利用期間中の発症でなかったこと、職員についても休暇中の発症であったことにより、クラスターや濃厚接触者の認定には至らず、大きな混乱なく運営を継続することはできましたが、その影響はとて大きなものとなりました。

この「コロナ禍」は在宅サービス系を中心に大きな打撃を与えたのです。感染リスクを不安視するあまり、それが「利用控え」に繋がり、経営の先行きに暗い影を落としました。

未知の感染症に対する恐怖感、出口の見えない闘いに対する不安感、それでもエッセンシャルワーカーとして従事することへの使命感。そのような様々な感情からご利用者も職員も肉体的にも精神的にも過度の消耗を強いられた一年であったと思います。

しかし、誰ひとりとして挫けた者はいませんでした。

それどころか、この「コロナ禍」という危機を好機に転換し、新しい生活様式の模索やサービスの提供様式の創出など、「コロナ禍だからこそ」の精神を共有し、積極的に取り組んでくれました。

これまで地域など施設外の社会資源に依存してきたものを内部創生に取り組むことで、対人援助のプロフェッショナルとしての意識も高まり、こんな時だからこそインフラに頼るのではなく、マンパワーによる敬意と真心を届けたい。そんな想いが込められた新たなサービスの形が数多く生まれました。

また、業務のあり方にも大きな変化が生まれました。

罹患防止対策の観点から委員会活動等の会議体の開催も憚ってきましたが、逆に日頃のコミュニケーションが闊達となり、これまで以上に大きな成果を数多く生み出すほどの進捗が窺えました。

「コロナ禍」で八方塞がりな状況下、停滞するのではなく逆に大きく進化、深化を遂げ、ご利用者の生活の潤いを損ねることなく、また職員の意欲を喪失することなく乗り越えた一年となったことは、事業報告書にて特筆すべき成果であると捉えております。

「コロナ禍」は未だ終息が窺えず、闘いもまだまだ続きます。そして私たちの進化もまだまだ途上にあります。

令和2年度に培った精神を、職員がともに手を携え合い令和3年度に繋げて参ります。

令和3年5月  
池袋敬心苑 施設長 齋藤隆弘

## 2 特別養護老人ホーム 池袋敬心苑

(指定介護老人福祉施設 定員:82名 併設型短期入所生活介護 定員:10名)

### (1) 特別養護老人ホーム

#### ① 重点目標の達成状況

---

新型コロナウイルス感染症の流行が上半期の新規入居者のご案内に大きく影響したこともあり、目標稼働率には至らなかったものの、その影響に緩和が窺えた下半期は空床期間の短縮等にも取り組み、昨年度を上回る稼働率(93.43%)で終えることができました。また、消毒や換気の徹底、職員の厳重な体調管理や行動統制、ご利用者の体調管理に細心の注意を払うなどの罹患防止対策を徹底したことも入院者の減少に繋がり、稼働率の向上に至りました。

看取りについては内部研修を実施し、池袋敬心苑が目指す看取りケアに対しての考え方も徐々に浸透し、14名のご利用者をお看取りさせて頂くことができました。

人材育成については特にリーダー職の育成に注力し、副主任主催で組織した委員会である「サービスをソウゾウする会」でマネジメントに関する学びを深め、次年度に繋がる成長が見て取れたことは収穫でした。コロナ禍の影響で介護実習の受入れはありませんでしたが、相談援助実習においては「多職種協働への理解」等、独自の実習カリキュラムを駆使した成果として、実習後の入職に繋げることができました。

#### ② その他目標の達成状況

---

罹患防止対策に留意しながらも、各委員会での新たなサービスの創出に努め、イベント食の実施や、外食ではなくデリバリーでご利用者の食に関する希望を叶える「ハッピーデイ」を実施し、ご利用者の生活の質の確保に取り組みました。また、リーダー職を中心に園芸や喫茶の開催など職員の「やりたいこと」を実現するなど、職員満足度に意識した取り組みを行いました。

地域公益事業の一環として、「豊島区版認知症ケアパス改定チーム」に参加することで池袋敬心苑が社会資源の一部として地域ニーズに応えることに取り組みました。

多職種の連携を強化することで褥瘡への対応も迅速かつ効果的となり、褥瘡者ゼロの月を達成することができました。

新たな取り組みとして、生活機能改善委員会を立ち上げ、適切な福祉用具の導入・活用を促進することでご利用者の生活負担や職員の介護負担を軽減できる新たな介護方法を導入することができました。

#### ③ 年度総括

---

コロナ禍の中、全職種が細心の注意を払い罹患防止対策に取り組み、ご利用者にとって「何が一番良いのか」と考えを深めることができる1年となりました。制限がある中で「できないこと」も多くありましたが、工夫を凝らし新たな「楽しみ」「サービス」の提供や「オンライン面会」などの新たな生活様式を創出することに取り組むなど、ピンチをチャンスに転換する意識を職員全体で共有できたことは、コロナ禍で苦しむ中での収穫であったと捉えています。

## (2) 併設型短期入所生活介護

### ① 重点目標の達成状況

---

新型コロナウイルス感染症流行により「利用控え」といった影響が大きく、目標稼働率は達成には至りませんでした。それでもなお、池袋敬心苑の魅力の発信方法に工夫を凝らし、新規のご利用希望者を積極的に受け入れる環境を整えることで、下期には問い合わせも増加し今後のリピーターの獲得に繋げることができました。

「ご利用者一人ひとりに合わせた対応、認知症の方への対応等ケアの質の向上」については、サービス担当者会議に出席する等で自宅環境や背景を鑑みたサービス提供を目指しましたが、コロナ禍での訪問等調整ができず実行には至りませんでした。ショート担当委員会の取り組み以外にも各委員会がご利用者の生活の質を落とさないための仕組みづくりや、ご利用者一人ひとりに合わせたサービスのモニタリングを実施しながら「できること」を模索しその実現に繋がりました。

### ② その他目標の達成状況

---

認知症ケアへの取り組みは課題も残りますが、ご自宅での過ごし方を参考に施設内でも同様の生活環境の提供を行う等の取り組みが行えました。

ショートステイご利用中の様子が「見える」よう生活のご様子をアルバムにしてお渡しする新たなサービスの提供が、次に利用する楽しみのひとつに繋がり、ご家族からも大変ご好評をいただきました。また、ご利用中に貼り絵等の手工芸を提供し、ご利用される毎に作品に取り組んでいただき、最終的にひとつの作品が完成した際は大変喜んでいただくことができました。1回のご利用毎にサービスを終了とするのではなく、ご利用中の活動を継続的(2回目・3回目等)に提供することで「また来たい」と思っていたいただけるサービスの創出に繋がりました。

### ③ 年度総括

---

新型コロナウイルス感染症の流行に伴う緊急事態宣言の発出以降、サービスを利用することによる感染のリスクを不安視するあまり大幅な利用控えがありました。感染症との闘いは長き道のりとなると捉え、ご利用に関して安心していただけるようなサービス環境の構築に取り組みました。また、罹患防止対策もさることながら、ご利用中も帰宅後も安心して在宅生活が維持していけるよう、ご自宅環境の背景やご利用者一人ひとりに合ったサービスが提供できるよう、ショート担当委員会を中心にサービスの改善、創出に取り組んだ成果は来年度以降に表出するものと捉えています。

### 3 デイホーム南池袋

(指定通所介護 定員:35名 認知症対応型通所介護 定員:12名)

#### ① 重点目標の達成状況

---

大きく3つの目標がありましたが、1つ目として、10月から個別機能訓練Ⅱの算定を開始出来たことは、大きな前進と言えますが、体制としてはまだ十分とは言えない状況の為、今後も体制作りに努めていきます。2つ目である土曜日営業の安定稼働については、送迎力の強化がなかなかうまくいかず、拡大することが出来ませんでした。3つ目である認知症対応型の改革についてですが、事業所内で発足した「はる」プロジェクトにて、認知症対応型のプログラムの立案や人員配置の見直しを行うことによるサービス内容の充実、ご利用者向けパンフレットの作成等、内容の充実と外部への発信の形を構築出来たことは大きな成果と言えます。

#### ② その他目標の達成状況

---

稼働率や登録者数については、前年度と比べ新型コロナウイルス感染症の影響もあり、かなり落としてしまいました。例年であれば利用希望の多い春先に緊急事態宣言が発布され、社会的な活動自粛を求められる中、ご利用者も減少しました。しかしながら、そうした社会情勢の中であっても、通所介護事業に求められている社会的な役割はあります。今年度は目標を大きく超える48件の新規顧客を獲得出来ました。利用自粛もありましたが、それとは別に安心して外出機会を持ちたいというニーズもあったということでもあります。今後も社会の変化に注視して、多様なニーズに応えられるように、柔軟な対応をしていきます。

#### ③ 年度総括

---

今年度は2度にわたる緊急事態宣言という新型コロナウイルス感染症の影響を大きく受け、利用自粛が多数あったことにより、とても厳しい一年となってしまいました。しかしながら、厳しい社会情勢の中、新型コロナウイルス感染症対策を継続し、少しでも安心してご利用いただける取り組みをすることで、サービス規模等を縮小することなく運営を続けられたことは、社会福祉法人としての役割を、地域社会へ微力ではありましたが還元出来たのではないかと考えています。特に、外出自粛等の影響でもある、いわゆる「コロナフレイル」でお困りの方々にも、手を差し伸べることが出来たと考えております。来年度も地域の方々にとって安心してご利用いただける事業所であり続ける為に、鋭意努力して参ります。

## 4 ふくろうの杜介護保険サービス(居宅介護支援事業所)

### ① 重点目標の達成状況

---

売上目標は達成し、前年比も上回っています。稼働率も94.9%となっております。  
認定調査は、コロナ禍に伴い、依頼はありませんでした。  
介護支援専門員の実習生の受け入れは1名でした。

### ② その他目標の達成状況

---

- (1) 区の研修等は、ZOOMを活用し、感染症対策に考慮し研修や勉強会に合計20回参加して、事業所全体としてレベルアップに取り組むことができました。
- (2) ふくろうの杜圏域の多職種連携の会は、ZOOMで、ミーティングを重ね、運営準備に携わりました。
- (3) 新型コロナウイルス感染蔓延に伴い、積極的に新型コロナウイルスの感染症対策に事業所内で取り組み、事業を止めることなくサービスの提供ができました。

### ③ 年度総括

---

- (1) 売上目標達成し、研修や地域との連携等にも積極的に参加いたしました。
- (2) 新型コロナウイルス感染症の流行等、事業継続が困難な状況ではありましたが、事業所一丸となり対応致しました。その結果、事業所内での罹患を防ぐ事ができました。

## 5 ふくろうの杜高齢者総合相談センター(地域包括支援センター)

### ① 重点目標の達成状況

---

高齢者見守り支援事業における地域ネットワークの構築

令和2年度も見守り支援事業担当中心に、民生委員、区民ひろば、高田介護予防センターとの連携、第1層コーディネーター事業(ベンチプロジェクト)への参加による町会や地域住民との連携に努めました。

地域のNPOやCSW、高田介護予防センターと月に1回情報交換会を開催していたものは令和3年度は第2層コーディネーターも交えての地域ミーティングにつながっています。

### ② その他目標の達成状況

---

介護予防の推進と、地域の高齢者の集いの場の確保

いきなり、コロナによる緊急事態宣言で始まった令和2年度でした。しかし、コロナ禍でも高齢者の社会活動への参加の重要性が改めて認識されました。

ステイホームの間にフレイルが進行し、緊急事態宣言明けには認知症の相談、下肢の筋力低下の相談が1.5倍に増加しました。

夏以降サロンが再開しましたが、感染対策をしながら安全な場の提供に努め、近隣の介護予防センターとも協力し、令和3年度に向けた総合事業(通所B)の立ち上げを行いました。

### ③ 年度総括

---

令和2年度は、前記のように本人、家族からの相談が多く

令和元年度の包括相談件数は2,770件でしたが、令和2年度は3,821件となっています。

見守り支援事業担当の相談件数も、令和元年度1,355件に対して2,832件と増加しました。

コロナ禍での高齢者の困りごとをすくいあげるべく、豊島区ではウイズコロナハガキという往復はがきを9月と1月に75歳以上の高齢者全員に送付し、「困りごとあり」にチェックがついた高齢者には包括から連絡し対応しました。

経験したことのない状況に最初は戸惑いましたが、振り返ってみると目の前の課題を解決しながら関係者との連携を密にできた年でした。

## 6 障害者支援施設 雑司谷

(施設入所支援施設・生活介護 定員 10 名 併設障害福祉サービス事業 定員:1 名)  
(地域活動支援センター 定員:10 名)

### (1) 施設入所支援施設・生活介護・併設障害福祉サービス事業

#### ① 重点目標の達成状況

---

雑司谷会議によるご利用者の施設づくり参画を進めて参りました。従来職員のみで検討していた業務効率化などにもご意見を頂戴し、支援の優先順位をともに考えることができました。一方、ご利用者への積極的な交流活動の提供、社会参加については、感染防止の観点から断念せざるを得ませんでした。メンタルヘルス研修への職員参加についても、構想は用意したものの外部研修の相次ぐ中止により実現しませんでした。

#### ② その他目標の達成状況

---

職員輪番制の「お楽しみレク」、プログラム表を確認しやすくするため卓上にも置くなど日中活動の工夫が生まれ、ご利用者からのご意見も徐々にではあるものの頂けるようになりました。内部研修については集合形式が取れない中、紙面研修・視聴覚研修などの方法を活用し実現。虐待防止や感染症対策などに加え、障害特性に関する研修も実施しました。また、年度当初よりビデオ面会をいち早く開始、特定のご利用者に限られはしましたが定期的なご利用を頂きました。

#### ③ 年度総括

---

新型コロナウイルス感染症を持ち込まない、また万が一罹患者が出た場合でも広げないということが大きなテーマとなりました。幸いなことに検査陽性者を出すことなく乗り切ることができたのはご利用者・ご家族様のご理解ご協力と各職員の予防意識、使命感の賜物です。

また必要な感染症対策の一環ではあったものの、外出支援・地域交流などに大幅な制限を要したことにより、ご利用者の新たな生きがい創出と、不安の受け止めが求められた部分がありました。

職員数の不足については感染症蔓延に伴い採用難航が続き解消することができず、非常に厳しい環境の中で、暮らしの基盤となる三大介助(食事・入浴・排泄)の効率化、買い物代行支援、環境に合わせた施設内行事の追加と、全職員で知恵を絞り総力を挙げて対応致しました。

## (2) 地域活動支援センター

### ① 重点目標の達成状況

---

今年度も医療的ケアのニーズがある新規ご利用者を受け入れ、安心してご利用頂ける環境づくりを進めました。また、特別支援学校在校生の進路実習を受け入れ、「卒後の進路を比較検討し選べる環境」を実現しました。

地域活動支援センターとしては必須ではないものの、個別のニーズにマッチした支援を提供するために個別支援計画を作成する予定でしたが、要望の確認を行うのみにとどまりました。

### ② その他目標の達成状況

---

感染症の動向を注視しながらも、個別のサービス維持に努めてきました。

居場所の確保という観点からご利用の制限等はありませんでした。小集団外出などの活動は制限された部分もありましたが、日中活動の多様化が徐々に進み、通所するための動機づくりにつながったようでもありました。

### ③ 年度総括

---

感染症が蔓延する中で、入所ご利用者をお守りしながらも、地域活動支援センターご利用者の行き場が失われないようにすることが最大のテーマであったように思います。東京都や豊島区からの支援物資・補助金を活用しながら、ご利用者のマスク着用環境、手洗い消毒の励行、送迎車乗車前の健康チェック、卓上パーテーションの導入など順次対応を積み重ねて参りました。また自粛されるご利用者についてもそのご判断を尊重し、折に触れて電話で様子伺いを行うなどの「支援を切らない」対応に努めました。

第4部  
浦安市障がい者福祉センターきらりあ  
(千葉県浦安市)

目次

	頁
1 はじめに ……	26
2 就労継続支援B型事業 ……	27
3 生活介護事業 ……	28
4 特定相談支援事業 ……	29



# 1 はじめに

令和2年度は新型コロナウイルス感染症に翻弄されながら、その対策に重点を置いた運営を行いました。当センターではご利用者と職員合わせて約150名が日々外から出入りしており、中には感染による重度化リスクが高い基礎疾患のある方もいらっしゃいます。また、ご利用者の中にはマスク着用をはじめ手洗いなど衛生管理がご自身だけでは難しい方も多くいらっしゃいます。これだけの人が一つの建物内で毎日一緒に活動し食事をするような感染リスクの高い場所であるという認識を全職員がもって日々の感染対策をしてきました。

就労継続支援事業所では作業資材が海外から入らず仕事が減ったり、焼菓子等の対面販売の機会がなくなったりするなどして収入が減り、クリーニング作業では汚れ物衣類の取り扱いを慎重にせざるを得なくなるなど影響を受けました。

また、コンサートやお祭、ポッチャ大会、旅行など計画していた大きなイベントは全て中止をすることになりました。代わりに、活動班ごとに納涼祭、半日外出、表彰式、きらりあシネマなど代替小イベントを行うことでご利用者に楽しんでもらえるようにしています。

感染症対策の一環として研修や会議等でオンライン参加ができるものが増えてきており、受講や参加をする職員が徐々に増えてきています。コンサートの代わりに編集した映像を使ったイベントも行いました。今後もさまざまな活動でICT機器なども活用をしていこうと思います。

その他にも、東野パティオ整備のために敷地一帯を工事することで登降所経路の変更があったり、バス通行が始まるなど交通状況が変化したりとすることで、ご利用者が安全に、混乱なく対応できるように市担当課や保護者と連携を取りながら支援を行いました。

環境の変化が苦手なご利用者の多い中で、困難を伴う大きな環境の変化があった一年でしたが、ご利用者と職員の努力と工夫、ご家族のみなさまのご協力で乗り切りました。今後は少しずつでも明るい方向への変化となっていくことを期待しています。

さて、当法人としては平成23年度から10年間の指定管理期間が令和2年度末で終了いたしました。ご利用者とそのご家族をはじめ、きらりあ運営を周りから支えて下さっている方々に心より感謝を申し上げます。令和3年度から新たに5年間の指定管理期間となりますが、今後にご利用者に対してよりよい支援を目指して参りますので、どうぞよろしくお願ひ申し上げます。

令和3年5月  
浦安市障がい者福祉センター センター長 肥田 淳

## 2 就労継続支援B型事業

### ① 重点目標の達成状況

---

(1) ご利用者にとって働きがいがある職場を目指します。

製菓作業において対面販売から注文販売を主流にしたり、クリーニング集荷時の洗濯前チェックにご利用者が携わらないようにしたりするなど、感染症対策により作業内容の一部変更をおこないました。「働く」ことへの気持ちが切れないための日々の支援に併せ、ご利用者の頑張りを表彰する機会もつくりました。受注量が大きく減った時期もありましたが一定の仕事量は確保でき、毎月の工賃及び賞与も例年通りの回数で支給することができました。

(2) ご利用者が主体的に取り組む場面が増えるように努めます。

得意とする作業を中心に割り振ることで、自信と責任を持って作業をおこなっていただけるようにしました。また、新しい作業種をおこなう際には丁寧な説明と必要な治具を準備し、不安なく進められるようにしました。作業以外の場面で相談を受けた際には意見や想いを丁寧に聞き取った上で助言し、ご利用者自身が最善な方向性を見つけられるように支援しました。

(3) 職員間での支援方針の共有とチーム支援を強化します。

毎朝の事業所ミーティングでは、当日のご利用者や職員の動きをホワイトボード上で確認しながら調整しました。また、作業グループごとの毎日のミーティングの他に定期的な班会議を開き、ご利用者のその時々々の状況の把握や個別支援計画の進捗状況を確認しました。他の部署も含めて共有すべき支援内容についてはグループウェアも活用しました。

### ② その他目標の達成状況

---

(1) 「学ぶ」を支援します。

朝礼終礼や作業場面において、社会情勢に対応した感染症対策に関わるルールやマナーを伝えたり、周辺道路の環境変化にあわせて交通ルールの再確認をしたりしました。

(2) 「楽しむ」を支援します。

例年おこなっているイベントは中止となりましたが、表彰状の授与式をおこなったりイベントサークルのリモート音楽発表会開催に向けて助言したりしました。

### ③ 年度総括

---

不安定な情勢の中でも一定の作業量を確保し工賃・賞与の支給ができました。取引先からの信頼も得られ、受注量の相談に応じていただいたり新しい会社をご紹介いただいたりすることもありました。感染症対策と丁寧な仕事を継続しつつ、新しい取引先開拓や工賃向上を意識して進めていきたいと考えています。

平均工賃：15,578円/月、賞与：7.9か月分、総額：12,037,159円（昨年度比80%）

### 3 生活介護事業

#### ① 重点目標の達成状況

---

(1) いきいきと活動できるよう支援します。

生産活動ではさまざまな作業工程を用意することで、一人ひとりが得意なことを中心に集中して取り組める環境を作りました。ネジの組立てやキャンドルの大量注文で忙しい時期も、それぞれの役割に責任感をもち、より意欲的な様子も見られました。また、班ごとの作業を継続し、朝と夕に支援員間で話し合い進めることで、ご本人の力に合わせて展開していくことができました。

(2) メリハリのある生活を送れるように支援します。

感染対策を行ないながら生活班ごとに、年5回のイベントを実施しました。ゲストが演奏した映像を鑑賞する『きらりあシネマ』やご利用者の思い出を形に残す『フォトフレームづくり』を企画しました。また、夏は輪投げや射的などを用いた『納涼祭』、秋は市内公園への『半日外出』、2月には『節分』を実施し、季節を感じつつ皆で楽しむ機会を作りました。

日常生活においてもメリハリをもてるように、午前はしっかりと作業を行ない、午後は小グループで周囲と関わりを持ちながら笑顔で取り組める活動環境を提供しました。

(3) 身体能力の維持・向上に努めます。

朝礼前や午後の活動において、体操や運動、機能訓練、ストレッチなどを継続し健康維持や体力向上を図りました。また、定期的にPT評価を受ける機会を作り、ご利用者の身体の状態を把握し運動方法などの指導を受けました。

室内での軽運動では、それぞれに合わせて回数や時間を示し見通しをもって取り組めるように工夫しました。後期は公園外出やウォーキングなど屋外で運動する機会も設けました。

#### ② その他目標の達成状況

---

(1) 生産活動

午前は、紙漉き、キャンド作り、手織り、ネジの組立てや空き缶つぶしなどの軽作業に取り組みました。市内やセンターのイベント中止にともない製品の販売機会は減りましたが、ご家族や地域の方から多くの注文をいただきました。

(2) 自立活動

午後は曜日ごとに、ご利用者それぞれの目標に合わせた活動を少グループで行ないました。木曜・金曜のクラブやスポーツ活動は生活班ごとに音楽や創作、軽運動に取り組みました。

#### ③ 年度総括

---

旅行やファミリーイベントなどの行事は中止や縮小せざるを得ず、また日常においても食事場所の変更や外出活動の制限など、感染対策により多くの環境変化がありました。しかし、ご利用者の順応性やマスク着用・手指消毒への意識の高さも見られ、一人ひとりの力をこれまで以上に感じるようになりました。その時の情勢に応じた生活にご利用者ご家族のご理解とご協力をいただき、職員が協力し合うことで皆さんが元気に過ごせたことが何よりの一年となりました。

## 4 特定相談支援事業

### ① 重点目標の達成状況

(1)ご利用者が自己決定、自己選択ができるような意思決定支援に取り組みます。

定期的に事例検討を行ない、個々に合ったアプローチ方法を検討しました。言葉で意思表示をすることが難しいご利用者に対して、社会福祉協議会から出ている意思決定支援の取り組みを参考に、担当者会議を通して、ご本人の意志決定支援を行いました。

(2)ご利用者やご家族の相談に応じ、必要な情報提供や迅速な対応に努めます。

ご利用者やご家族、関係機関へのモニタリング及び担当者会議はオンラインや電話での聞き取りを活用し、感染拡大防止策を徹底してきました。お互いにとって慣れない方法の中でも丁寧な聞き取りや意見交換を心掛けることで、ご利用者の意思や希望に沿った支援内容となるように努めました。

(3)ご利用者やご家族からの聞き取りや、相談員がマネジメントを行うことを通して見えてくる地域課題の解決に取り組みます。

将来の相談や地域生活を送る上での相談があった場合、その都度聞き取りをして課題を整理しました。また、地域課題について相談支援実務者会議や自立支援協議会の相談支援部会などで発信をしたり、ご家族と一緒に行政に働きかけたりしました。その結果、重度のご利用者が浦安で暮らし続けられるように、行政からサービス提供事業所に協力の呼びかけをしてもらうこともできました。

### ② その他目標の達成状況

#### (1) 相談件数

内容	件数
サービス等利用計画作成数	143
モニタリング実施数	390
担当者会議開催数	152
相談対応件数	6,422

#### (2) 連携等会議

会議名	回数
相談支援実務者会議	4回
地域の関係機関との連携会議	2回
自立支援協議会相談支援部会	3回
事例検討会議(市内事業所連携)	1回
事例検討会議(基幹相談支援センター主催)	6回
精神障害にも対応した地域包括ケアシステム構築推進会議	4回

### ③ 年度総括

福祉サービス利用以外のご相談は年々増え続けており、ご本人だけではなくご家族の困りごとなどもお聞きする機会が増えています。日々の生活を安心して続けていくためには、ご本人の課題に取り組むだけでは解決しない場合も多く、ご家族への支援についても学んでいく必要性を感じた一年でした。また他職種連携がより重要になるため、地域の支援機関との連携もさらに強化していきたいと考えています。

第5部  
敬心ゆめ保育園  
(千葉県船橋市)

目次

		頁
1	はじめに	30
2	保育事業	31
3	特別保育事業	32



# 1 はじめに

令和3年3月、新型コロナウイルス感染拡大のため緊急事態宣言期間ではありましたが、万全な感染防止対策を講じ、第7回卒園式を無事に執り行うことが出来ました。前年同様制限を設け終始マスク着用での実施とはなりましたが、しっかりと25名の園児を小学校へと送り出すことが出来安堵しております。

今年度は、4月から緊急事態宣言発令という非常事態下におかれ、1ヵ月半に及ぶ休園期間となり、エッセンシャルワーカーのお子さん10名前後だけが登園するという、未だかつて経験のない異例のスタートとなりました。その結果新年度の新入園児31名は、慣らし保育が中断し家庭保育を余儀なくされ、僅かに登園している子ども達の中にも緊張の日々が続きました。

6月頃より徐々に活気が戻ってきた保育園ではありますが、幼児期の子どもたちは小さいながらも危機を感じ素直に対策を受け入れ、密になれない辛抱の日々が続きました。

3ヵ月遅れで新入園児の慣らし保育が再開し、賑やかな乳児の鳴き声が響き渡り、新年度の雰囲気を感じられたのは7月でした。その中でも保育や行事は、どうすべきか模索する日々の中、子ども達の一年を無にすることはできない、立ち止まっては行けないと、職員一同無我夢中になって感染防止に努めながら対応しました。

本格的に長期化するコロナ禍に於いて、感染拡大防止対策としての必需品が手に入らない事態や毎日朝晩131人の園児とその保護者、職員合わせて300人が出入りする保育園は、少しの油断も許されない不安と心配のコロナ禍の渦中に置かれた一年となりました。

ピンチをチャンスに変えるその一つに、異例の休園期間があったからこそ取り組めた職員研修では、全員が同じ課題に向き合う機会を与えられ学びを深めるチャンスがありました。

二つ目には、働き方改革にもあたる、職員会議の在り方や食事・休憩の取り方、ICTを活用した保護者連絡ツールや保育の様子の伝え方等、システムの運用の幅を広げる機会にもなり、危機的状況からの発想の転換にも繋がったと感じております。

開園7年が経ち大幅に定員数を超えて対応してきている施設内各所に、劣化や故障・不具合が目立ち始める一年となりましたが、今後も更に増えてくると想定し計画的且つ迅速に対応していく次第です。

また、今年度は、コロナ禍の対応となり園庭開放など地域子育て世帯の方々との交流や、小学校接続期を含めた外部との関わりが持てなかったことは誠に遺憾ではありますが、施設園児・保護者・職員の健康を守ることが出来たことは、ひとえに関係者の皆様のご支援、ご協力の賜物だと心より感謝しております。

令和3年5月  
敬心ゆめ保育園 園長 佐藤宏美

## 2 保育事業

### ① 重点目標の達成状況

---

#### (1) 期毎の保育内容

- ・1期(4～5月)はコロナ禍に於いて、休園期間を経て保育活動及び行事の延期、中止等の対応が多くなり、感染防止対策に向き合うことが精一杯の状況であった。
- ・2期(6～9月)は、遅れていた新入園児の慣らし保育が進み始め、コロナ禍の生活に不安を感じながらも、一人ひとりと丁寧に関わるよう努めた。
- ・3期(10～12月)感染防止対策を講じながらも、安定した保育が出来る方法を模索し実施した。例年に劣らない保育の提供に努めるため、集団を小さくして密を避け実施した。
- ・4期(1～3月)接続期の外部連携は全面的に中止となったが、年長児には、小集団で可能な範囲で通学路体験や卒園遠足、小規模ながら卒園式も実施することが出来た。

### ② その他目標の達成状況

---

#### (1) 保育園の教育

小学校教育が「プログラミング教育」を導入する昨今、当園では「遊びの中からの学び」に着目し、空間認知能力や思考力を育むために、年齢に即した各種積み木の提供や想像を膨らませて創造するレゴやラキューなどのブロックの提供に力を入れた。また他者との駆け引きを経験する卓上ゲームなども取り揃え、プログラミングの基礎にも値する遊びを通し学びの機会とした。但し保育園の教育が小学校の先取り教育にならないように、一人ひとりの個性や興味を大切に育み取り組むようにした。

#### (2) 職務の遂行

- ・保育園休園期間中に全員が同じ研修を受講する機会を作り、共通認識、共通理解を深め保育の質の向上を目指した。
- ・各種会議では、コロナ禍に於いて会議の在り方を検討し、小規模会議へと変更して行なうようにした。その結果、新人・ベテラン問わず発言者に偏りがなくなり参加者の責任感の向上など、意識変化が見られるようになった。

### ③ 年度総括

---

長期戦となったコロナ禍に於いて、年度前半の保育では、制限下の活動となり子ども達の体面に於いては、例年に比べ低下傾向にあると感じ、密を避ける屋外での活動を多く取り入れる工夫をした。また、保育や職務の在り方など例年のない思考で取り組む機会が必然的に増えていき、保育活動や行事は延期・中止に留まらず縮小や短縮、または分割や時差をつけ取り組める方法を見つけ実施するよう変化していった。コロナ禍では、どの方法を採用したとしても常に不安や苦労は絶えず、その都度課題に向き合いピンチをチャンスに変える気持ちで職員一丸となり乗り切ることが出来た。今年度は、誰もが経験したことのない苦悩の年となり、職員に於いても仕事とプライベートの側面からストレスを回避しづらい状況は否めない。特に新卒で就職した4名の保育士にとっては厳しい1年となったに違いない。今後もフォローやケアを継続的に行っていく必要があると感じている。

### 3 特別保育事業

#### ① 重点目標の達成状況

---

##### (1) 時間外保育事業

・年度前半は、休園期間や継続的な自粛期間のため利用を控える状況が続いた。そのため収入面において例年に比べ減額となった。

##### (2) 体調不良児型病児保育事業

・今年度はコロナ禍での対応となり、通常(17時まで預かり)の機能は果たせず、基本的には体調不良児を長時間預かる事はしていない。

・保育室や園庭に於いて、制限の中でのストレスや体力低下の側面から、園児の怪我が大変多く、その対応に追われることが多かった。

#### ② その他目標の達成状況

---

地域活動推進事業(世代間交流等事業・異年齢交流・幼保小の連携活動・小学校との接続に関する活動・園庭開放事業の充実・その他)については、外部との関わり連携に係る一切の活動は中止となった。

※保育園見学者の受け入れについては、一時的に再開したがパンフレットの配付と簡単な説明程度に留めることが多くなった。

#### ③ 年度総括

---

外部との連携事業を含む特別保育事業は、コロナ禍の為、受け入れることが出来ずにほぼ中止となった事はまことに遺憾ではあるが、コロナ禍の感染防止対策に於いて衛生用品の不足や感染者を出さない為にも、施設内の対応以外の余力がなかったことは否めない。長期戦になることも想定される中、Zoom や YouTube・オンデマンドなどの運用も検討してきたが実用にまで至らず今後の課題となった。





# 社会福祉法人 敬心福祉会

## ～ 事業所一覧 ～

### 【〒157-0064 東京都世田谷区給田5-9-5】

- 法人本部事務局 TEL 03-5958-1165 FAX 03-5958-1210
- 特別養護老人ホーム 千歳敬心苑 TEL 03-3307-1165 FAX 03-3307-1140
- デイ・ホーム千歳 TEL 03-3307-2282 FAX 03-3307-1140
- 給田介護保険サービス TEL 03-3307-2598 FAX 03-3307-1140
- 給田ヘルパーステーション TEL 03-3307-2424 FAX 03-3307-1140

### 【〒157-0062 東京都世田谷区南烏山6-2-19 烏山区民センター2階】

- 烏山あんしんすこやかセンター（地域包括支援センター）  
TEL 03-3307-1198 FAX 03-3300-6885

### 【〒171-0022 東京都豊島区南池袋3-7-8 オリナスふくろうの杜】

- 特別養護老人ホーム 池袋敬心苑 TEL 03-5958-1165 FAX 03-5958-1210
- デイホーム南池袋 TEL 03-5958-1206 FAX 03-5958-1209
- 障害者支援施設 雑司谷 TEL 03-5958-1176 FAX 03-5958-1210
- 雑司谷デイサポートセンター TEL 03-5958-1176 FAX 03-5958-1210
- ふくろうの杜介護保険サービス TEL 03-5958-1207 FAX 03-5958-1195
- ふくろうの杜高齢者総合相談センター（地域包括支援センター）  
TEL 03-5958-1208 FAX 03-5958-1195

### 【〒279-0042 千葉県浦安市東野1-8-2】

- 浦安市障がい者福祉センターきらりあ（就労継続支援B型事業・生活介護事業）  
TEL 047-350-8770 FAX 047-350-8766
- きらりあ相談室（相談支援事業） TEL 047-350-8765 FAX 047-350-8775

### 【〒273-0002 千葉県船橋市東船橋3-15-8】

- 敬心ゆめ保育園 TEL 047-411-5725 FAX 047-424-7373